

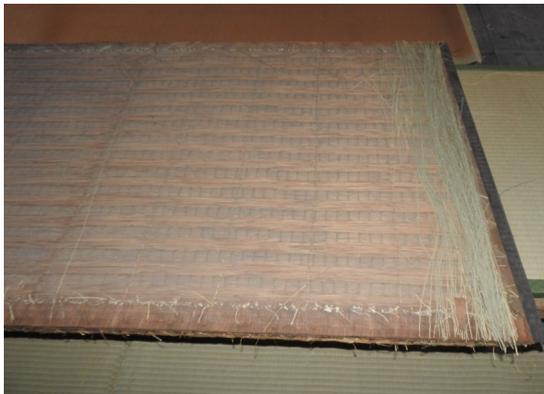
# 飛雲閣修復情報

2020(令和2)年4月に完了した飛雲閣の修復内容について詳しくご紹介します。

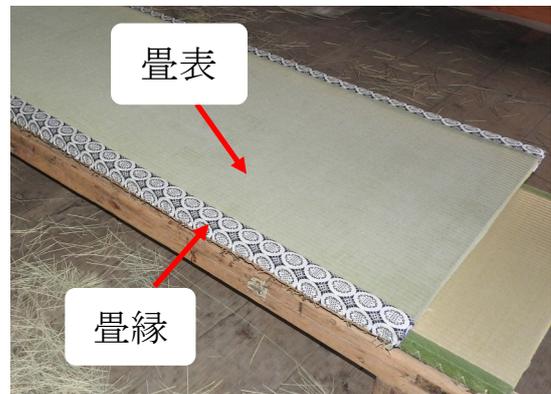
## ・畳修復【2020年1月～3月 実施】

今回の修復では、飛雲閣の1層から3層に敷き詰められている畳130枚の修復を行いました。作業は昔ながらの伝統的な工法で行われました。

畳は、幾重にも重ねた稲藁を締め付け圧縮して作られる畳床、たていと経糸にい草を編み込んで作られる畳表、たたみおもて畳表の角の摩耗を防ぐため、ながてほうこう長手方向につけられる畳縁という構造になっています。たたみべり2層目、3層目の畳床には藁を手で編んだ手法(手床)が使われています。てどこ手床は再現することが大変難しい先人の高い技術で作られており、修復と表替え(畳表の交換)を繰り返して現代まで受け継がれています。



▲ 先人の高い技術で作られた畳床(手床)



▲ 畳表と畳縁



▲ 修復前の畳



▲ 修復を経て新しくなった畳

# 飛雲閣 畳の表替え 修復過程



三十六歌仙 素性法師

## ①板締め作業

古くなった畳表を取り外して緩んだ頭板を畳糸で締め直します。へこみ等をなくした後、寸法を調整します。



締め直し作業の様子

締め直された畳床



## ②框綴じ作業

畳表を乗せ、たるまないようにしっかりとりつけ、縁のついていない畳の端を縫い付けます。



畳表を固定

縫い付けの様子



## ③平刺し(縁付け)作業

職人は「手あて」と「畳針」という道具を用いて、畳の縁に高麗縁を縫い付けます。畳針の長さは4寸5分(約13.5cm)です。



平刺し(縁付け)作業の様子

使用している手あてと畳針



## 畳縁

飛雲閣の畳縁は高麗縁が取り付けられています。紋縁は隣同士の紋の位置が合うように寸法を見て調整しています。



飛雲閣で使用している畳縁

修復後の歌仙の間



三十六歌仙 清原元輔

